

生涯学習

No.582

かおり高い 文化のまち

発行 下諏訪町
教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
メール syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

中学生の広島平和教育体験研修

広島平和教育体験研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止されていましたが、今年度三年ぶりの実施となり、下諏訪中・中学校2年生の代表8名の生徒が、8月2日、3日に広島平和教育体験研修に参加しました。研修に参加して学んだことは、8月15日に行われました第77回下諏訪町戦没者追悼式に先立ち発表しています。今回はその生徒の感想を紹介します。



原爆ドーム前にて

自分の目で確かめる

初めて見た見た原爆ドームは、ここで原爆があったんだよと必死に訴えているようでした。平和記念資料館には、火傷を負った人の写真やボロボロになった衣服など、その当時のものや人の姿が痛々しく飾られています。私は、それを見て言葉が出ませんでした。このようなことは、二度とあってはいけなないと思いました。そして、今回学んできたことをたくさんの人に伝えていかなければいけないと思いました。

(下中 武井 千佳)



原爆の子の像



焼け跡に立つ少女
(平和記念資料館)

被爆者の方たちの気持ちを知る

はじめはどんな研修になるかとワクワクしていましたが、平和記念資料館で見た焼け焦げた服や、やけどで苦しむ人々の写真を見た後、被爆された方のお話を聞いた後、心が締め付けられるように苦しくなりました。しかし、戦争や平和について深く考えることができました。友達や学校の人、そして世界中の人たちに戦争の怖さ、命の尊さを感じてほしいです。

(下中 林 美月)

原爆で失われたもの

今回、私は広島へ行き、平和のことについて見て、聞いて、その当時何が起っていたのか学習してきました。今、広島は復興を遂げて、立派な都市になっています。しかし、77年前、同じ時期に自分たちがいる広島に原爆が落とされたということを考えると、とても心が痛みました。

(下中 関 優斗)



平和記念公園で鶴を捧げる



原爆死没者慰霊碑の前で

戦争の恐ろしさ

僕は人生で初めて過去の戦争の実態について知ることができました。資料館に行った時は、なんとも言えない気持ちになりました。さまざまな当時の資料や写真などの資料を見て、平和とはすごく尊いものなのだなということに気づくことができました。

(下中 近藤 優雅)



平和の鐘

過去に起きた広島でのこと

僕はこれまでに原爆について考えた事がありませんでした。ですが、この研修に参加させていただける事になり原爆について学ぶとてもいいきっかけになりました。現地に行つて、広島平和記念資料館を見学したり、被爆者の方の話を聞いたりして、過去にとっても悲惨なことが起きていたことを知り、胸が痛くなりました。今、僕たちが当たり前前に学校に行つて学習出来ている事がとても幸せな事だと感じました。

(社中 大槻 恭友)

当時の辛さを知り、現代へ伝え繋ぐ

実際に被爆にあった方は、「苦しい環境の中怯えながら生活してしました。生きていくのが申し訳ないと思うほど、心がなくなつた。」と話されていきました。罪のないたくさんの方が、一瞬のうちに命を奪われてしまつたこの過ちをもう二度と起こしたくないです。なので、原爆の恐ろしさや、生命の尊さなどを改めて現代に伝えていきたいと思ひました。

(社中 岡澤 杏奈)

被爆者の講演会



ガイドの方のお話を聞く

平和の大切さと命の尊さ

原爆ドームを目の前にして、建造物がこれほど破壊される威力の爆風を人間があびてしまったことを実感した。そして、その瞬間まで普通の日常があったことも分かった。戦争は恐ろしい。

今ある平和な生活と、私の身の回りにある大切な人々を失うことのないように、皆が私利私欲のために争うことの無いように、話し合つて努力していかなければならない。

(社中 北澤 勇人)

広島が平和のためにしてきたこと

「平和のため、核兵器をなくすために原爆投下時のことを伝えていく。」「伝えていかなければならない。原爆がなかったら別の人生があった。」と被爆者の方から聞きました。広島は、日本の平和のために原爆投下時のことを伝えていくのだと思ひました。また、このことを伝えてくれる方も減つていると思うので、自分もこの研修で学んだことを伝えていかなければならないと思ひました。

(社中 美齊津 花歩)

最初で最後の修学旅行



下諏訪中学校 三年一部

榎尾 梓

修学旅行、それは三年間ある学校行事の中でも一大イベント。そんな修学旅行にコロナの影響で延期や行き先の変更など大変なことがありましたが、7月4日から6日の三日間、三年ぶりに行くことができました。

元々は京都・奈良へ行く予定だった修学旅行。コロナの影響で予定を変更し、石川・福井に行くことになりました。行き先の変更は最初はみんな不満があったようですが、「石川・福井にはこんな所があるよ」と、写真などを見せてもらったことでみんなのテンションは急上昇！みんな「めっちゃ楽しみ！」「早く行きたい！」などとても嬉しそうでした。そんなウキウキな気分でした。そんなウキウキな気分でした。そんなウキウキな気分でした。

める中で更なるハプニングが起こりました。なんと修学旅行は元々四月に予定されていましたが、延期との知らせが来てしまったのです。みんなのテンションは一気に下がってしまいました。「三か月後とか遠すぎる：」、「テストのモチベが：」などの悲しい声が多く聞こえてきました。それでも文句ばかり言っていないで、他の活動も行いつつ、少しずつ修学旅行の準備も進めていきました。

雨が降らないか心配でなりませんでした。そんな心配をよそに現地についた時の天気は曇り。しかも旅行中の三日間一度も雨に降られることもなく、安定した天気です。修学旅行を楽しむことができました。ちなみに北陸地方は曇りの日が多く、曇りでも「いい天気」というそうです。

私が特に印象に残っているのは、福井、越前和紙の里で私たちの卒業証書を作ったことです。最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

私たちが卒業証書を作ったこと、最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

私たちが卒業証書を作ったこと、最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

とことができました。

当日朝の天気は雨。見学中に雨が降らないか心配でなりませんでした。そんな心配をよそに現地についた時の天気は曇り。しかも旅行中の三日間一度も雨に降られることもなく、安定した天気です。修学旅行を楽しむことができました。ちなみに北陸地方は曇りの日が多く、曇りでも「いい天気」というそうです。

私たちが卒業証書を作ったこと、最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

私たちが卒業証書を作ったこと、最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

私たちが卒業証書を作ったこと、最初はどんな作り方でやるのか分からないことだらけで不安でしたが、和紙の里の方が一緒にやってくれて、とてもスムーズに作業を進めることができました。自分たちの手で作った卒業証書がどのようになるのか、今からすごく楽しみです。

私たちの学年は、コロナの影響でたくさんの方々が中止になってきました。今回の修学旅行はこのメンバーで行ける最初で最後の宿泊行事でした。そのような初めての状況の中でも、日頃の学校生活で培った団結力で、みんな周りを見ながら行動し、大きな事故も起きずに帰ってくる。それができ、最後にふさわしい修学旅行になったと思います。

私たちの学年は、コロナの影響でたくさんの方々が中止になってきました。今回の修学旅行はこのメンバーで行ける最初で最後の宿泊行事でした。そのような初めての状況の中でも、日頃の学校生活で培った団結力で、みんな周りを見ながら行動し、大きな事故も起きずに帰ってくる。それができ、最後にふさわしい修学旅行になったと思います。

私たちの学年は、コロナの影響でたくさんの方々が中止になってきました。今回の修学旅行はこのメンバーで行ける最初で最後の宿泊行事でした。そのような初めての状況の中でも、日頃の学校生活で培った団結力で、みんな周りを見ながら行動し、大きな事故も起きずに帰ってくる。それができ、最後にふさわしい修学旅行になったと思います。

私たちの学年は、コロナの影響でたくさんの方々が中止になってきました。今回の修学旅行はこのメンバーで行ける最初で最後の宿泊行事でした。そのような初めての状況の中でも、日頃の学校生活で培った団結力で、みんな周りを見ながら行動し、大きな事故も起きずに帰ってくる。それができ、最後にふさわしい修学旅行になったと思います。

私たちの学年は、コロナの影響でたくさんの方々が中止になってきました。今回の修学旅行はこのメンバーで行ける最初で最後の宿泊行事でした。そのような初めての状況の中でも、日頃の学校生活で培った団結力で、みんな周りを見ながら行動し、大きな事故も起きずに帰ってくる。それができ、最後にふさわしい修学旅行になったと思います。



越前和紙の里で紙漉き体験



金沢駅前・鼓門（つづみもん）



兼六園にて学年みんなで



和菓子作り体験

○下諏訪体育館11月の休館日は、1・4・8・15・22・24・29日です。

地域との関わりを大切にした生徒会活動

下諏訪中学校生徒会



女子副会長
高木 心路
たかぎ こころ

社中生徒会では地域との関わりを大切にしています。今年度は、特に地域に貢献していく活動や地域の人の関わり・交流を持つことを重点活動として力を入れていきます。新型コロナウイルスの影響で思うように活動が行えないなど難しい場面もありますが、その中でできることを考えながら活動を行っています。その一つに、地区生徒会では、地区長が各地区の支部長さんと連絡を取り、すでに行われていることで私達がお手伝いできそうなことを教えていただき、一緒に参加しました。

新しい活動として、夏休みに各地区の主に草取り、道のごみ拾いなどの地域に貢献できそうな活動を考えて行いました。ま



諏訪湖周辺のゴミ拾い

た、諏訪湖清掃に参加し、地域の環境美化を行ってきました。その様子は今年の絆祭で展示しました。

これまでさまざまな活動で地域の皆さんにお世話になっていきます。これからも積極的に活動を考え実行し、地域との関わり、絆を深めていきたいと思えます。



大門地区会長
藤原 温人
ふじわら はるひと

夏休み中に、浮島会の皆さんのお手伝いとして、春宮の手水舎の清掃をさせていただきました。

地域の方々とコミュニケーションを取ることや奉仕活動をしたいという思いを受け入れてもらえるか心配でしたが、浮島会の皆さんが、快く受け入れてくださり、楽しく作業ができました。

作業の中には敷石を全て出し、中にたまった泥などをきれいにし、また全ての石を戻す工程がありました。

普段見たこともやったこともない作業でしたが、優しく教えていただき、地域の皆さんの温かさを改めて感じました。お舟祭りが近かったので、少しでも力が近かったことができたと思います、とても有意義な時間になりました。

これからもこのような活動に積極的に参加し、地域に貢献していきたいと思えます。



浮島会会長
清水 草平
しみず そうへい

社中の生徒さんに主に草取りをお願いしました。他に、石の

水盤の水を抜いて、たわしですった後、水できれいに洗い流したり、手水舎の周りの握りこぶしぐらいの丸石をきれいにしたりする作業と一緒にやってみました。

いつもは会員ばかりでやっている作業ですが、若い人が来てくれて浮島会の皆さんも嬉しそうに作業もいつもよりはかどりました。



敷石の泥を洗い落とす



手水舎周辺の草取り

みんなで踊ろう しもすわ音頭！



しもすわ音頭実行委員会

小口 順也 (東鷹野町)

子どもから大人まで愛され、いつまでも思い出に残り、下諏訪町に魅力ある事業を創りたいという思いのもと、実行委員会を立ち上げました。実行委員会のメンバーが集まり事業内容を考える中で、近隣地域に比べ踊りをメインとしたお祭りが無いのではとなり、「しもすわ音頭実行委員会」となりました。

楽しんだことが書かれています。また、日中戦争から太平洋戦争の終戦までは盆踊りが休止だったのですが、戦後になって復活し、町内のあちこちでお盆の時期に踊っていたそうです。新型コロナウイルス蔓延前までは、宵祭りに四つ角、みずべ公園、四王公園などで踊っていたようですが、コロナ禍となり実施されなくなりました。このような状況が続けば、若い世代の人たちが盆踊りの踊り方や盆踊りが行われていたことを忘れてしまうのではないかとこの結論に至りました。そこで、老若男女問わず楽しめる一体感を感じることが出来る盆踊りの良さを見直し、それを若い世代に引き継いでいきたいと考え、

「しもすわ踊り」や「明神音頭」などを町民みんなで踊り、みんな



南小学校体育館で盆踊りの練習

みんなで踊ろうと考えました。実施に至るまでは、「諏訪圏青年会議所」の協力もいただき、町内の小中学校を訪問し、児童・生徒に盆踊り（「しもすわ踊り」と「明神音頭」）を体験してもらいました。町内の舞踊団体の協力により作成した動画で踊りを紹介した後、具体的に舞踊家の方に踊りを指導してもらいました。子どもたちは、動きや振付がわかってくる楽しくなってきたようで、はじめ恥ずかしそうにしていた子どもたちも、友だちの動きを見ながら輪になって踊っていました。



赤砂崎で「しもすわ踊り」を踊る

が楽しめ、思い出に残してもらえるようなものになればと思っています。また、単体のお祭りとして、下諏訪町の魅力の一つとなっていくように続けていきたいと考えています。そして、子どもから大人まで、自分たちが住んでいる下諏訪町をさらに好きになっていただけるきっかけの一助となればと思います。「しもすわ音頭2022」のイベントがこれまでコロナの感染拡大防止対策のため三回延期になりましたが、9月19日（月）赤砂崎でやっと実施することができました。台風14号が接近する中でしたが、大勢の参加があり、盆踊りを楽しむことができました。



『このゴミは収集できません』

滝沢秀一（マシンガンズ）著 白夜書房

雨の日も雪の日も、街中から出された「ゴミ」を収集し続けるゴミ清掃員。そんなゴミ清掃員が普段働いている中で思うことや、ゴミから見た格差社会、ゴミ問題に対して個人でできることなど…読めばゴミに対する意識が少し変わるかもしれません。

お笑い芸人マシンガンズの滝沢秀一がゴミ清掃員を始めて迎いだした「ゴミ学」や、ゴミ清掃員ならではの日常を分かりやすく、面白く、赤裸々に綴っている1冊です。

この本の他にも著者本人のゴミ清掃員としての日常を描いたコミックエッセイなど、多数本があります。あわせて是非ご利用ください！



紹介した本は図書館で借りられます。電話でも予約が可能です。 ☎27-5555

十一月のこえ

令和3年11月6日土曜日、我が子のお宮参りに行った。体重2122グラムの小さな身体で生まれた我が子は、約1か月の間NICU（新生児集中治療室）に入院していた。私をはじめ我が子を抱いたのは出生からおよそ1か月後、お宮参りは出生から3か月が経った頃のことだった。この頃には、体重が6000グラムを超える大きくなって元気な赤ちゃんになっていて、子どもの成長に驚かされてばかりだった。

お宮参りは、順調に進み、我が子も終始機嫌が良く、祖父母たちも大喜びであったが、御祈祷の最中、熨斗目（祝いのしめ）に包まれて眠っていた我が子は、自分の名前が呼ばれると目を覚まし、突如として泣き出した。厳粛な空気の中、響き渡る我が子の泣き声は、一生忘れることのない思い出のひとつとなった。

あれから約1年が過ぎ、我が子の行動範囲は急拡大。時には、ソファをよじ登ってみたり、またある時は、玄関で私の靴を投げてみたり、日に日に目が離せなくなる一方で、初めてできるようになったこと一つひとつが私たち夫婦に新しい感動を与えてくれている。

そんな我が子は、「青い機関車のキャラクター」に大ハマリ中である。そしてなぜか、踏切が大好きで、鷹野町の踏切近くを通ると「カンカン」と言って喜んでいいる。将来、「Nゲージ（鉄道模型）」にだけはハマってくれるなど、冷や汗が垂れる両親であった。

少し話が脱線したが、育児には当然、大変なことや辛いこともある。けれど、我が子の行動や仕草が、日々私たち夫婦を親として成長させてくれている。我が子の成長を、時には助け、時には見守り、親子の絆を育んでいけることを切に願うばかりである。

（教育こども課 小林 翔）